

修士論文

再帰問い合わせ名前解決へのハッシュ関数を用いた
DNS Exfiltration 緩和策の提案

高須賀 昌烈

2020 年 3 月 15 日

奈良先端科学技術大学院大学
先端科学技術研究科

本論文は奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科に
修士(工学) 授与の要件として提出した修士論文である。

高須賀 昌烈

審査委員：

門林 雄基 教授 (主指導教員)

笠原 正治 教授 (副指導教員)

林 優一 教授 (副指導教員)

妙中 雄三 准教授 (副指導教員)

再帰問い合わせ名前解決へのハッシュ関数を用いた DNS Exfiltration 緩和策の提案*

高須賀 昌烈

内容梗概

キーワード

DNS Exfiltration, 秘匿通信, ハッシュ関数, 再帰問い合わせ

*奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 修士論文, 2020 年 3 月 15 日.

Proposal for Mitigation of DNS Exfiltration using Hash Function to Recursive Name Resolution*

Shoretsu Takasuka

Abstract

Keywords:

DNS Exfiltration, Covert Channel, Hash Function, Recursive Name Resolution

*Master's Thesis, Graduate School of Information Science, Nara Institute of Science and Technology, March 15, 2020.

目 次

1. 序論	2
1.1 研究背景	2
1.2 研究課題	2
1.3 研究目的	2
2. 準備	2
2.1 秘匿通信	2
2.2 DNS プロトコル	2
2.2.1 DNS Exfiltration	2
2.2.2 DNS Tunneling	2
2.3 暗号学的ハッシュ関数	2
2.3.1 定義	2
2.3.2 性質	2
3. 関連研究	2
3.1 トラフィック特徴に基づいた悪性 DNS クエリ検知	2
3.2 ペイロード特徴に基づいた悪性 DNS トランザクション検知	2
3.3 次世代名前解決プロトコルによる緩和	2
4. 提案手法	2
5. 評価	2
6. 議論	2
7. 結論	2
謝辞	3
参考文献	4

付録	5
A. 発表リスト (国内研究会)	5

图 目 次

表 目 次

1. 序論

1.1 研究背景

1.2 研究課題

1.3 研究目的

2. 準備

2.1 秘匿通信

2.2 DNS プロトコル

2.2.1 DNS Exfiltration

2.2.2 DNS Tunneling

2.3 暗号学的ハッシュ関数

2.3.1 定義

2.3.2 性質

3. 関連研究

3.1 トラフィック特徴に基づいた悪性 DNS クエリ検知

3.2 ペイロード特徴に基づいた悪性 DNS トランザクション検知

3.3 次世代名前解決プロトコルによる緩和

4. 提案手法

5. 評価

6. 議論

7. 結論

謝辞

ご指導ご鞭撻賜りありがとうございました.

参考文献

付録

A. 発表リスト (国内研究会)

1. 高須賀 昌烈, 妙中 雄三, 門林 雄基, “非実在ドメインに対するネガティブキャッシュの拡張と再帰問い合わせハッシュ化の提案”, 電子情報通信学会情報ネットワーク研究会, 2019-10-ICTSSL-IN, 2019 年 10 月.